



## 行合(ゆきあい)の空

隣り合わせる二つの季節の変わり目が“行合”(ゆきあい)ですが、特に夏から秋に移ろう今頃の微妙な風情を“ゆきあい”という優しい響きで表現します。

ところが今年はどうしたことか夏と秋との攻めぎ合いが主客転倒しているようで、9月を迎えても猛暑が居座り、夏殿が秋殿にその座を譲り渡す気配が一向に見えません。

ギクシャクした攻防は、近頃の政権の行方のようで、およそ“ゆきあい”の雰囲気似つかわしくありません。

何年振りかで中学生の運動会(いや、中学生は体育祭というのでしょうか?)に行って来ました。去

年までは小学生だった孫娘の運動会は一年のことでガラリと変わった迫力ある体育祭で演目もリレーの類もその成長は目を見張るものでした。

久方振りの興奮を味わって力が入りすぎ、ふと富士を仰ぐと、この時季特有の曇りの中にも上半身を隠していました。更に眼を上に移すと天空は見事な“行合(ゆきあい)の空”入道雲(積乱雲)とスジ雲・ウロコ雲の夏雲と秋雲が一緒になって、大空一杯に広がっていました。

地上はド迫力の運動会いや体育祭。上空は季節の移ろいの雲の行き交い――。

『行合(ゆきあい)の空』きれいなきれいな日本の言葉を実感しました。

K・H



浅間大社秋の例大祭

# 富士宮 秋まつり

11月3日(祝)・4日(木)・5日(金)



- 3日 宮まいり、お囃子奉納  
(午前9時～大社拝殿前)
- 4日 共同催事  
(午後4時～9時、大社周辺)
- 5日 山車・屋台の引き廻し

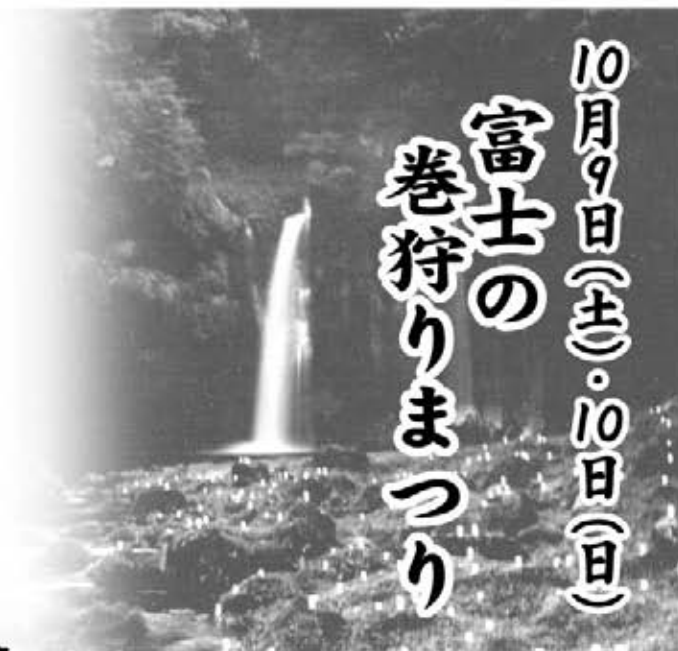
●富士宮秋まつり公式ホームページ <http://akimiya.com/>

## ● 白糸の滝燈回廊 ●

白糸の滝周辺(遊歩道等)に蠟燭のかがり火等で灯りの演出を行い、この地域に残された文化、歴史、伝承等に思いをはせるような幻想的な雰囲気醸し出します。

- 日時 10月9日(土)午後6時～9時
- 場所 白糸の滝周辺  
\*観光協会駐車場無料開放  
(午後5時から)

主催:富士山まつり推進委員会  
 主管:富士の巻狩りまつり実行委員会  
 問合せ:(社)富士宮市観光協会  
 静岡県富士宮市中央町16-1  
 TEL/ 0544-27-5240



10月9日(土)・10日(日)  
**富士の巻狩りまつり**

## 2010 朝霧Jam

Camp in Mt. Fuji  
It's a beautiful day

10/9(土)・10(日)  
朝霧アリーナにて



毎年、全国各地から大勢の人々が集まる野外イベント「朝霧Jam」が今年で10回を迎えます!詳しくはホームページをご覧ください。

<http://smash-jpn.com/asagiri/index.html>

## 田貫湖だより



### 田貫湖アートフェスタ

- ◆日時: H22年10月10日(日)  
10:30~15:00
- ◆場所: 田貫湖キャンプ場(南側テントサイト)

自然豊かな田貫湖畔で  
 絵手紙、スケッチ  
 子どもぬり絵が  
 楽しめます♪



※詳細は(社)富士宮市観光協会へ  
tel.0544-27-5240 fax.0544-26-0066

# この人

中野幸司さん  
猪之頭陶房窯主 陶芸家



新涼とは名ばかりで、蒸し蒸しと暑苦しい雨は台風9号の仕業。そんな9月8日から14日迄、宮町の江戸屋ギャラリーで『初涼の器』と銘打った陶器展が開かれた。

昨年の夏の終わり、陣場の滝近くに築かれた窯場にお邪魔すると、まだ荒けずりながら、初々しい優しい色合いの湯呑み茶碗やコーヒーカップが所狭しと並べられていた。聞けば、友人の結婚式の引出物とか。「世に問う初仕事かも知れませんが。」来合わせていらっしゃったお母様が、目を細めてポツリ・・・。

そんな記憶があって、この度の初個展へは是非とも初日にと訪れた私は瞠目した。

丁度今、お日様を浴びている様な小麦色、摘み採ったばかりのヨモギを揉んだような何とも柔らかかな草色、搗きたて餅のような乳白色の花器や



皿、カップ、湯呑み、ビールマグなどが展示スペースに威儀を正していた。

彼独自の釉が醸し出す、温もりに溢れたそれらの器はどこかにウフッと遊び心が密そんでいてなかなか楽しい。心根の表れかな？

子供の粘土細工をそのまま焼き上げたような三輪車は、思わず摘まみ上げてしまった。

近頃、立て続けに大きなメディアで紹介されているので彼の経歴は省かせて頂くが、囁望される30才の多才な陶芸家の未来にエールを送りたい。

魅せられて、今手元にあるヨモギ色のカップ&ソーサーからブルーマウンテンが安らぎの芳香を放っている。 K・H



## 七五三

11月15日を七五三の祝い日とするのは、一陽来福の月、15日は満月の日であるからといわれている。つまり、3歳と5歳の男児、3歳と7歳の女児に行う儀式が七五三である。

日本では古くから、男女3歳になると髪置の祝いといって、生髪または深髪を剃り、身分の上下を問わず頂髪を置く儀式があった。次いで男児が5歳になると袴着の祝いを、女児が7歳になると帯解きを行った。しかしこの式日は定まっておらず、正月の吉日とか誕生日に行われた。江戸時代になると中流以下の子女は3歳になると円形または輪形に髪を結び、そのまわりを取り去った。

今はまとめて男女共7歳、5歳、3歳の子供が氏神さん等にお参りして、子供の成長と福運を祈願し、家庭では赤飯を炊き、尾頭つきの魚などを添えて家族親戚がうち揃ってお祝いをする。

七五三の起源は、江戸時代で5代将軍綱吉の子徳松の祝いがこの日に行われたのが始まりといわれている。七五三で売られる「千歳飴」は元禄宝永年間に江戸浅草のあめ屋が考案し、神社や寺の門前で売ったものといわれ、長生きする様にこの縁起をかついだもので、これが七五三専用のものとして広まったものといわれる。

今日も浅間大社には着飾った家族が七五三の子供を連れてお詣りに来ています。この幸せがいつまでも続きますように願わずにはおられません。 H・S

